

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第六期第3回生涯学習推進協議会
事務局(担当課)		文化商工部学習・スポーツ課
開催日時		令和元(2019)年7月31日(水) 18時30分～20時30分
開催場所		豊島区役所 8階 教育委員会室
議 題		1. 開会 2. 経過説明 3. 「としま学びスタイル～豊島区生涯学習推進計画～2020-2024」 進捗状況 4. ワークショップ「街全体がキャンパスに」施設のカテゴリー分け 5. 閉会
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	倉持 伸江、高井 正、唐木澤 みどり、東澤 昭、荘司 哲夫、 大高 信、加藤 久子、沼田 篤、石岡 祥男、木川 るり子
	そ の 他	
	事 務 局	文化商工部長、学習・スポーツ課長 学習担当係長(生涯学習振興)、社会教育主事、生涯学習振興グループ主事、 生涯学習指導員

事務局：第6期の第3回豊島区生涯学習推進協議会を開会させていただきます。

事務局：豊島区のいろいろな施設で生涯学習活動が「活発に」行われている。過去にないような活動が文化政策の柱として行われている。まさに生涯学習活動の皆様の力が引っ張っている。ぜひお力をお借りしたい。

事務局：生涯学習は裾野が広く担当課ではまかないきれない。庁内各課にも、区民の皆様の為に生涯学習を担っている意識を持ってもらうことで政策の幅をもっと広げていきたい。今回の計画をそのように認識するきっかけとしたい。

事務局：生涯学習は幅広い分野。計画を作ることによって区民の皆様により良い学びの場が提供できる機会になればよい

《配布資料の確認》

会 長：あらためまして、こんばんは。これより第3回の生涯学習推進協議会を始めます。まずは次第1, 2につきまして、事務局より説明をお願いします。

事務局：経過説明及び進捗状況説明

【資料3-1】生涯学習推進計画2009-2019の成果と課題説明

会 長：今回配布した「としま学びスタイル」で確認・質問わからなかった点、気づいた点、などお願いします。

委 員：資料3-1で、新しく始めた事業の10年間の成果をふまえて、資料の「今後の方向性」に沿って今後5年にやるべきことを考える、ということになるが、推進計画には「方向性」だけでなく具体的なアクションが記述されていると、一般の方にも分かりやすいと思う。区のこれまでの取り組み努力の結果、豊島区の地域ブランド力は上がっており、全国から注目されている。ぜひ生涯学習でも日本の先進事例になってほしい。新たな社会課題に対応することにブックカフェはあるが、今後は新たに社会課題に対応するプログラムが必要ではないか。

委 員：最初に出てきた第一回のラフスケッチよりもかなり変わってきていて議論が進んでいるという印象を持った。ただし、最初の案「誰もが主役」と「区民が主体」という表現は異なるものと捉えている。「シナプス」という言葉も「誰もが主役」と繋がると考える。もう一点は、現計画の重点課題である「生涯学習センターの設置」についてですが、できたこととできなかったことをその理由を含めて、方針変更の理由と求める機能とは何かを評価の中で明記してもらいたい。なぜなら、前5期推進協議会の答申としても提出されている課題であり、今回の「としま学びスタイル」を具現化させる仕組み作りには欠かせない機能と考えるからです。

委 員：としま学びスタイルも考えられてまとめられる。基本的な考え方をさらに深めていくとは思いますが、学びの範囲に関して、誰でもどんな場所も含むということだが、豊島の中でというのは気になった。誰を対象とするかということ、豊島の中でということをもう少し明確に示してほしい。また、主役、主体、作り手、担い手、の意味が似ている。違うなら違いをはっきりさせたほうがよいと思う。

委 員：【資料3-1】「つどう」成果について、学習・講座を開催した施設がH22から3倍も増えた根拠は何か。また表の「その他」が飛躍的に伸びている理由は？

事務局：国で行っている社会教育調査の豊島区の回答データが根拠である。学習の種類についても社会教育調査項目の中にあり、種類が増えているためにこの数字になっている。施設の数について、飛躍

的に伸びているのは、回答がなかった施設へも再度、社会教育調査の対象となるところから声掛けをして回答をひきだしている。こういった働きかけが大きいと推察する。実際、区民ひろばでは生涯学習をやっていないという回答があったが、「対象にあたる」と回答を求めた結果、数値が飛躍的に伸びた。その他の項目については幅広い講座が含まれているため、これに関しては後で正確なデータを示す。

委 員：表のタイトルで、「区が主催する」とは？

事務局：「豊島区で主催する」という意味で、共催事業や後援事業は含まない。

委 員：区民ひろばも入っているか？

事務局：入っている。

事務局：他課の事業で今まで生涯学習に関わっているという認識がなかったものについて「皆さんのやっていることは区民の皆さんに学びの場を提供しているんですよ」と認識してもらうために改めて学習・スポーツ課から働きかけた。23年の調査時は回答がないものをそのまま報告していた。ここ何年かは、健康推進課や福祉関係の課でも広義の意味で対象の講座ではないですかと働きかけたことによって認識してもらえた。数字のとらえ方としては、正しいと思っている。

会 長：課長から指摘があったことについては、生涯学習の範囲をどこまでととらえるかに関わる。社会教育・生涯学習担当部署が主催している事業だけではなく、区内で行われているさまざまな部署の事業も学びということにとらえられるのだということで、前期の計画が立てられている。後期の計画も関連部課長さんに集まってもらい庁内会議を検討される、ということからも、いい質問だったと思う。

委 員：「豊島区の現状」に関しては、「日本一の人口密度、多くの外国人、進む少子高齢化」もポジティブにとらえたい。区内に学生や働き盛りの人が大勢いることも都市ならではの特征なので、このような多様なダイナミズムを活かすという視点を入れた計画にしてほしい。豊島区には多くの大学や企業があるので、としまコミュニティ大学マナビト研究生などの区民・大学・企業が一緒に社会課題にとりくむ可能性にも期待したい。

委 員：【資料 3-1】(3)「つなげる」のところ。2つ、としま学講座、エリアガイドボランティア講座とあるが、なぜこの2つなのか。私自身、エリアガイドボランティアの養成講座入門編と応用編に参加し、ガイドは長崎で行っており、南大塚探検隊にも入っている。私がこれを読んだときに、社会的な学習として位置づけられていることに驚いた。講座の中ではそのような説明は全くなかった。あったらもっと違うのではないか。なぜここに選んだのか。

事務局：前期計画の重点施策の1つで、この2つを挙げている。ガイドは「学んだ成果を生かして学んだ知識を新たな来街者に伝えていただく」という意味で社会的学習の成果を生かして社会貢献していただいている認識である。豊島区についても、マナビト生が自ら地域の課題を見つけ出すような学びの展開、学んだ成果を生かして社会貢献していただいている。好きでやっていることも結果的にそうなっているのでこちらに入れている。

委 員：講座をしているときに、そういった説明がなかったのが、認識がなかった。一番最初に、説明してもらわないと、皆認識がもてない。だから少し違和感があった。これだけ発信しているときに、大事だと思う。

委 員：一つ目として、生涯学習センターの設置に関しては、前計画で記載があった。その段階では箱

ものをつくるような話があった。今は、今ある場所でコンセプトを変えるまではいかないが、取り組み方を変えて実施していると思う。きちんと新しい計画に「としま学びスタイル」という形で表記したほうが良いと思う。

事務局：生涯学習センターと聞くと施設をつくるイメージだが、現行計画でも、機能整備という役割を考えている。コーディネート・相談、情報提供・発信、人材育成、学びの場の進化・拡充、区の生涯学習施設との調整機能など、できているものとそうでないものはあるが、区の方では実施中ととらえている。

事務局：補足すると、第5期で検証したとき、生涯学習センターはハード整備にみえてしまうが、機能を充実するという点で、意見をいただいている。「センター」という言葉が区民の方にも誤解をされる懸念がある。言葉の整備と生涯学習のベースとなるものをどこかで区別する必要がある。

委員：生涯学習センターの経緯についての理解と、特定の場所ではなく生涯学習全体を支える機能と捉える、ということが理解できた。ただ現在の資料ではセンターの表現があいまいなので、「ファンクション」としてしっかりやっていくということなら、具体的な中身も含めて、そのように明言したほうがよい。学習をささえる機能といっても、情報システムの充実、プログラムの企画、コーディネートなど、やるべきことは色々あると思うので、もう少し検討して欲しい。

委員：2つ目。「つどう、つながる、つくりだす」については、支援者を支援し、区民一人1人を支援する、活動している人や活躍していく人の支援、これが新しい生涯学習センターの姿で、学びスタイルの姿なのではないか。そこをもっと大きく示せばよい。街全体がキャンパスに、ということろこれ一枚で生涯学習計画、生き生きした街の様子を見開きで表現し、各施設がこれを大きく貼れるようになったらいいと思う。

会長：荘司委員が良い方向付けをしてくれた。「街全体がキャンパスに」庁内会議で区内の施設をどう見せたらいいのか、どう整理したらいいのか。役所は所管で考える。ゆるやかにつながりあう様を表してもらいたい。これから次第3のワークショップを行う。隣の部屋にセッティングしているので、この資料は持って移動してほしい。

【ワークショップ 「町全体がキャンパスに」施設カテゴリー分け】

会長グループ：唐木沢委員、荘司委員、加藤委員、石岡委員

カテゴリー分けを考える

- ・施設を使う人で分ける（大人、中高生、子ども、乳幼児など）
→大人でも高齢者、若者、保護者などあり、分けにくい。
- ・施設の目的別、テーマで分ける（社会課題別）
→かたまりをつくりにくい。
- ・つどう、つながる、つくりだす、で分ける（最終的にこの分け方で作業）
大学によって属するところが違ってくる→つどう
としまコミュニティ大学、ボランティア→つくりだす
博物館・美術館→つどうとつながる
保健所→妊娠中のお母さんにはつながる場

分けてみての感想

つどいが強い。どれもが関係するものは強い機能を持つものところへ。分けにくいものは真ん中へ。大明、地域文化創造館はつくりだすが強い。この絵を見て「始めてみよう」「参加してみよう」と思えるといい。外国人はどの場に行けるのか?の表記もあるといい。

副会長グループ：沼田委員、東澤委員、木川委員、大高委員

カテゴリー分けを考える

- ・豊島区らしさが伝わる分け方
→目的や立場・視点により分け方が変わってくる…絵や図で表現することは難しい。
様々な事業を横串の視点で議論しつなげていくことが必要。
- ・具体的なテーマごとに分ける（例：音楽、中山道、具体的な事業など）
→テーマごとに、様々なものがシナプスのようにつながったり離れたりを表現したい。
中山道や池袋モンパルナスなどを通して区を超えた連携も必要

分けてみての感想

区民には見えづらい複合施設内の連携を表現できないか。生涯学習のみではなく、産業活性化・IT分野でも地域連携を推進する大学との連携が必要。区民活動支援事業補助金は区民の活動を支えるものなので図の中心におきたい。シナプスのような様々なつながり方を絵で表現するのは難しい。

会 長：おかげさまで、大事さと難しさの両方が改めて分かった。今回の計画は、区民の手に取ってわかりやすいものにしたい。参加されたり取り組んだりしているものを支えたり、発展させたりするものにしたい。具合的に表せたらいいと思うが、すべてを入れ込むのは難しいので、知恵を寄せ集めたい。アイデアご意見ありましたら後日でもご意見をお願いしたい。

副会長：やってみて面白かった。2つのグループでも違う話になった。地域文化創造館には3つの機能があるが、40%ここで30%はここ、書いてないけど10%こことか。パーセンテージで分けることでいねいに見せることができるかもしれない。たくさんの施設があり、特色や専門性の高いもの、誰でも使えるものもある。道路とか川とかは分けるものでも、つながるものでもある。今までになかった視点が出てきたのはとてもよかった。これをどんな形で見せていくのか。1枚で見せる工夫が必要。でもできる気がした。テーマや、子ども、おとな、様々なつながり方が無数にある。それぞれのコミュニティ事例をいくつか掲載することでつながりを見せることもできるのではないか。区民が、私も主役と考えて、実際にやってみることができる図があるといい。家庭の貧困や健康、小さな取組みで施設が相互につながっていくような、シナプスのイメージになるといい。豊島らしい生涯学習の学び場につなげていきたい。

会 長：意見、何かまた思いついたらという取扱いについて、事務局からお願いしたい。

事務局：何かあれば、8月9日までに事務局にメールで伝えてほしい。

会 長：今後のスケジュールとしては、次回は10月、11月に答申、2月に本委員会の予定である。以上で、協議会を終了する。

審 議 結 果

会 議 の 結 果	<ul style="list-style-type: none">・【資料 3-1】「つどう」の成果についてのデータの根拠を示す。・ワークショップで実施した「街全体をキャンパスに」の図については、精査し、次回までにまとめる。・今回の議題に対しての意見は、8月9日を期日とし、集約する。
提出された資料等	<p>資料 No. 3-1 豊島区生涯学習推進計画（2009-2019）の成果と課題</p> <p>資料 No. 3-2 としま学びスタイル～豊島区生涯学習推進計画～2020-2024（骨子案）</p> <p>資料 No. 3-3 としま学びスタイル～豊島区生涯学習推進計画～2020-2024（案）</p>
そ の 他	